

# 関西眼疾患研究会 平成24年度事業報告書

平成24年1月1日より平成24年12月31日まで

本年の事業については、平成24年度の事業計画に基づいて実施し、本会の目的達成に努力した。

## 1. 会員へ向けての定期講演会

1. 1月11日（水）第340回 関西眼疾患研究会特別講演  
高井義美（神戸大学） 「上皮組織－構造と機能」
2. 2月1日（水）第341回 関西眼疾患研究会特別講演  
園田康平（山口大学） 「眼炎症とサイトカイン：IL-23, 27を中心に」
3. 2月8日（水）第342回 関西眼疾患研究会特別講演  
窪田良（Acucela社）「ビジュアルサイクルモジュレーションを用いたAMD治療薬開発」
4. 2月15日（水）第343回 関西眼疾患研究会特別講演  
原田高幸（東京都医学総合研究所） 「正常眼圧緑内障の疾患モデルと治療研究」
5. 3月7日（水）第344回 関西眼疾患研究会特別講演  
恵美和幸（大阪労災病院） 「チャレンジ硝子体手術」
6. 4月11日（水）第345回 関西眼疾患研究会特別講演  
Dr. Pablo Argueso (Schepens Eye Research Institute)  
「Galectin-3 is a Critical Regulator of MMP Activity and Cell-Cell Adhesion in Cornea」
7. 7月18日（水）第346回 関西眼疾患研究会特別講演  
橋本隆（久留米大学）  
「自己免疫性水疱症の抗原解析の最新の知見：粘膜類天疱瘡と腫瘍随伴性天疱瘡を中心に」
8. 7月25日（水）第347回 関西眼疾患研究会特別講演  
山口照英（国立医薬品食品衛生研究所）  
「再生医療・細胞治療の品質・安全性確保の要件」  
松山晃文（先端医療振興財団）  
「脂肪組織由来細胞の新展開 一次世代医療の実現を目指して」
9. 8月29日（水）第348回 関西眼疾患研究会特別講演  
青山 正明先生（ドリームインキュベータ）  
「日本を代表するソニー/シャープ等の大企業が不振に喘ぐ中、プロフェッショナル個人として、今後、どういう視点で世の中を捉え・動くべきか？」

10. 10月10日(水)第349回 関西眼疾患研究会特別講演  
杉山 和久先生(金沢大学)「POAG(広義)を科学する」—病態から治療まで—
11. 10月17日(水)第350回 関西眼疾患研究会特別講演  
羽室 淳爾先生(京都府立医科大学)  
「細胞移植再生医療における免疫学的課題についての1考察」
12. 11月21日(水)第351回 関西眼疾患研究会特別講演  
Lee, HyungKeun. MD. PhD (Yonsei University College of Medicine)  
「A unique tyrosine kinase based regulation of corneal angiogenesis」

## 2. 海外研究者との情報交換会

### 1. 4月9日（月） Dr. Recharad Abott

・海外学会の仕組みやその構成についてご講演いただき、引き続きディスカッションをおこなった。海外学会の今後の方向性についてや学会のプログラムの編成について、またどのようにして眼科医の教育をおこなっていくかについてお話いただいた。また、新興国であるアジアの眼科医の取り込みや今後の可能性について伺った。世界全体の眼科医のあり方について、大変情熱深くお話いただき、大変有意義な研究会であった。

### 2. 4月10日（火） Dr. Pablo Arguesso

・ムチンとO-glycan、Glectin-3などの、眼表面におけるムチンバリアに関する新しい研究成果についてご講演され、講演後研究会において横井則彦先生が発表されたBUT短縮型ドライアイについてのディスカッションを行った。横井則彦先生の説ではBUT短縮型ドライアイは角膜表面の濡れ性の低下により、開眼時に涙液の塗りつけがうまく行われず、涙液膜が破綻するとされ、角膜の膜型ムチンの異常が根本の原因とされている。これに関して、Glico-biologistであるPablo Arguesso先生の見解も、角膜上のムチン層構造の変化により濡れ性が変化する可能性は大いにあるというものだった。ムチン自体の変化だけでなく、ムチンと相互作用するO-glycanの有無によって濡れ性が変化的ことが確認されており、BUT短縮型ドライアイは涙液の疾患というよりは角膜の疾患である可能性が高いという意見であった。

今回の講演会および研究会は、最新のムチン研究の成果について、臨床および基礎の両面から意見交換を行うことができ、大変有意義なものであった。

### 3. 4月19日（木） Dr. Yann Barrandon, Dr. Andrea Zaffalon, Dr. Maia Caillier

・京都府立医科大学（KPUM）、スイス連邦工科大学ローザンヌ校（EPFL）とですすめている角膜上皮幹細胞を用いた再生医療に関して、その枠組みや、製造方法、臨床応用の手順にいたるまでを詳細に意見交換した。スイス連邦工科大学ローザンヌ校 Yann Barrandon教授による“上皮幹細胞の可塑性に関する生物学的特性“の発表は、今後我々の幹細胞を用いた角膜再生医療研究を進める上で、大変有意義であり、貴重な機会であった。また、各分野にとらわれることなく、視野を広く保ち、研究を進めていく必要性を話し合うことができた。また、我々の現在までの研究計画、研究結果の問題点、課題等に関して非常に貴重なsuggestionを互いに伺うことができた。今回の京都府立医科大学（KPUM）、スイス連邦工科大学ローザンヌ校（EPFL）との角膜に関する研究会ならびに懇話会は、我々眼科グループの医師にとって非常に教育的な内容であり、たいへん有意義なものであった。

### 4. 6月27日（水） Dr. Christopher Peterson

・人種毎・地域毎の精神医学・心理学的特性についてメインに研究されている教授をお

招きしご講演いただき、その後 情報交換を行った。現代病のひとつ抑うつ状態と、心筋梗塞発症リスク増加の関係性がある等といった興味深い研究内容をお話しいただいた。特に難治性眼疾患患者の心のケアの必要性について共通点があり、クリストファー教授より最新のアメリカの研究手技や臨床におけるケアについてご紹介いただき大変有意義な意見交換ができた。

5. 11月7日（水） Dr. Yann Barrandon, Dr. Maia Caillier

・府立医大内で行われた今回の国際共同研究の打ち合わせでは、現在スイスより本学に共同研究のために短期滞在しているCaillier Maiaの研究の方向性や実際の方針に関して、実務レベルまでの内容の詳細を話し合った。特に、角膜上皮幹細胞を用いた角膜再建の動物モデルに関して、その枠組みや、前臨床応用の手順にいたるまでを詳細に意見交換した。スイス連邦工科大学ローザンヌ校 Yann Barrandon教授による上皮幹細胞の生物学的特性に関する考え方は、今後我々の幹細胞を用いた角膜再生医療研究を進める上で、大変有意義であり、貴重な機会であった。また、最先端の幹細胞研究に関する情報を拝聴し、大変貴重な機会であった。各分野にとらわれることなく、視野を広く保ち、研究を進めていく必要性を話し合うことができた。また、我々の現在までの研究計画、研究結果の問題点、課題等に関して非常に貴重なsuggestionを互いに伺うことができた。今回の京都府立医科大学（KPUM）、スイス連邦工科大学ローザンヌ校（EPFL）との国際共同研究に関する打ち合わせは、我々眼科グループの医師にとって非常に教育的な内容であり、たいへん有意義なものであった。

6. 12月6日（木） Dr. Frank Praice, Dr. Mariam Price, Dr. Prashant Garg. MS

・バプテストアイクリニックの見学、御車会館の見学、京都府立医大の眼科外来の見学と電子カルテシステムの説明などを行った。海外においては一般外来における電子カルテシステムの導入は珍しいとのことで、Praice先生、Prashant先生ともに、AP, GPの結果が、電子カルテ上に転送されてくことや、診察時に撮影したスリットの写真が画面に映ること、タッチペンでスケッチできることに興味を示していただいた。指導医が実際に見ている細隙灯顕微鏡の映像がパソコン画面やモニターに映ることで、学生教育においてもすばらしいシステムであると興味を示していただいた。また、最新のDSAEK, DMAEKに関するディスカッションを行った。日本ではL I後の水疱性角膜症がおおいが、米国ではFuchsが多いことなど、国によつての違いが議論になった。また、インドでの角膜感染症についてもお話をうかがった。衛生状態の悪い地域では術後の感染対策も万全ではないため、患者の居住地域や生活習慣にも気を配る必要があることなど、改めて再認識する機会を得た。世界で活躍されている先生方の考え方や、研究に関する熱意を知ることができ、大変有意義なものであった。

### 3. オープンフォーラム（共催：参天製薬株式会社・京都眼科医会）

#### 1. 第 39 回京都眼科フォーラム

平成 24 年 2 月 4 日（土） テーマ：『症例から考える眼疾患パート 2』

吉村長久（京都大学）「症例から考える加齢黄斑変性」

山下英俊（山形大学）「糖尿病黄斑浮腫と網膜静脈分枝閉塞症の治療」

不二門尚（大阪大学）「屈折・調節障害で困った症例」

阿部春樹（新潟大学）「視神経障害機構からみた緑内障性視神経症と他の視神経症の考え方」

- ・先の夏のフォーラムでご好評をいただいた「症例から考える眼疾患」の第 2 弾を企画、「症例から考える眼疾患 2」と題して、屈折・調節障害、緑内障、網膜疾患、黄斑疾患を網羅した超豪華なケーススタディーを企画し、各分野のエキスパートの先生方を招き、講演では選りすぐりの症例を見せていただいた。

#### 2. 第 40 回京都眼科フォーラム

平成 24 年 7 月 7 日（土） テーマ：『診療に役立つ症例検討会』

大橋裕一（愛媛大学）「Trip to BAD World」

桑山泰明（福島アイクリニック）「明日から役立つ緑内障治療」

飯島裕幸（山梨大学）「SD-OCT で診断する黄斑疾患」

中尾雄三（近畿大学）「抗アクアポリン 4 抗体陽性神経炎 Update2012」

- ・京都眼科フォーラムは第 40 回の節目を迎え、日常診療に役立つ症例をテーマに取り上げた。緑内障、黄斑疾患、前眼部疾患、神経眼科疾患を網羅した超豪華なケーススタディーを企画し、各分野のエキスパートの先生方を招き、講演では選りすぐりの症例を見せていただいた。

#### 4. 眼科診療アップデートセミナー（共催：ファイザー株式会社）

平成 24 年 3 月 17 日（土）～18 日（日）ウェスティン都ホテル京都

3 月 17 日（土）

- 「ドルーゼマンを見直そう」 吉村長久（京都大学）
- 「黄斑疾患の診断」 飯田知弘（福島県立医科大学）
- 「網膜循環障害」 飯島裕幸（山梨大学）
- 「視野からみた難しい網膜疾患」 近藤峰生（三重大学）
- 「角結膜感染症」 井上幸次（鳥取大学）
- 「結膜出血と瞬目関連疾患」 大橋裕一（愛媛大学）
- 「診断に苦慮する小児の眼疾患」 東範行（国立成育医療研究センター）
- 「目瞼下垂」 三村治（兵庫医科大学）
- 「多治見、久米島緑内障疫学スタディ」 新家眞（関東中央病院）
- 「眼圧の正しい測り方」 谷原秀信（熊本大学）
- 「緑内障ガイドライン」 山本哲也（岐阜大学）
- 「薬物治療アップデート」 桑山泰明（福島アイクリニック）

3 月 18 日（日）

- 「複視のみかた」 柏井聡（愛知淑徳大学）
- 「IgG4 関連眼症について」 中尾雄三（近畿大学）
- 「ぶどう膜炎三大疾患（サルコイドーシス）」 竹内大（防衛医科大学校）
- 「感染性ぶどう膜炎の診断ツール」 望月學（東京医科歯科大学）
- 「前眼部 OCT および画像解析」 大鹿哲郎（筑波大学）
- 「白内障手術のバイオメカニクス」 永原國宏（聖母眼科医院）
- 「近未来の屈折手術と白内障手術アップデート」 ヒッセン宮島弘子（東京歯科大学）
- 「角膜内皮疾患」 西田幸二（大阪大学）
- 「角膜上皮疾患の初心にかえる」 木下茂（京都府立医科大学）
- 「よくあるコンタクトレンズに関わる浸潤とドライアイ」 村上晶（順天堂大学）
- 「食品因子による炎症制御ー加齢黄斑変性の予防医学ー」 石田晋（北海道大学）

- ・各領域のエキスパートの講師陣を擁し、結膜・角膜・屈折手術・コンタクトレンズ・緑内障・網膜・白内障・神経眼科・ぶどう膜炎の臨床診断・治療・疾患概念についてアップデートな考え方を紹介していただいた。

## 5. KPUM Strategy Council

平成 24 年 6 月 9 日（土）ウェスティン都ホテル京都

- 京都府立医科大学眼科として研究の方向性を戦略的に検討することを目的として、第 3 回 KPUM Strategy Council を 24 年 6 月 9 日（土）8 時～12 時 30 分にウェスティン都ホテル京都にて開催した。第 1 回で決定した各研究グループの研究内容に関連して、今回は研究の進行状況と成果報告を行った。研究顧問の羽室淳爾特任教授にもご出席いただき、ご自身のアカデミアと企業の両方で研究に従事されたご経験に基づいて包括的なお立場からのコメントや研究費獲得への助言をいただいた。

また特別講演として羽室淳爾特任教授には「補体，酸化ストレス，脂質代謝，マクロファージ」と題した講演をいただいた。ご自身が提唱されているマクロファージの機能的分類（酸化型 1・酸化型 2・還元型）から、補体活性・組織炎症をベースとした病態解明の可能性について最近の知見を元に解説いただいた。

今後の当教室の研究の発展につながる有意義な戦略的ミーティングであった。

## 6. 視覚再生フロンティア研究発表会

平成 24 年 12 月 22 日(土) ウェスティン都ホテル京都

福本暁子	「粘膜類天疱瘡の臨床所見と血清検査に関する考察」
中井義典	「ヒト多能性幹細胞から角膜組織細胞への分化誘導」
北澤耕司	「角膜上皮幹細胞のコア転写因子の同定」
丸山悠子	「Podoplanin 制御による角膜リンパ管新生と角膜移植後拒絶反応の抑制」
木村直子	「瞬目高速解析装置を用いた瞬目測定」
永田健児	「眼サルコイドーシスに対する網膜生検」
山岸哲哉	「眼底自発蛍光の新知見」
畑中宏樹	「眼内増殖性疾患における組織線維化抑制」
中川紘子	「角膜内皮疾患眼における広範囲での内皮細胞動態の評価」
加藤弘明	「新しいドライアイ点眼液の効果」
吉川晴菜	「緑内障患者における前房水中の酸化ストレス状態について」
上田幸典	「涙道再閉塞部における病変組織の病理組織学的検討」
今井浩二郎	「再生医療の安全性確保と推進について」
羽室淳爾	「HW プロジェクト角膜内皮研究、心の隙間」

・京都府立医科大学眼科において研究に従事するものが一同に介して、研究の進捗状況の報告と今後の方向性を検討することを目的として、第 19 回視覚再生フロンティア研究成果発表会を開催した。大学院生研究発表はプレゼンテーション（8 分間）の後に討論（5 分間）を行った。教員と大学院生のみならず研究顧問の羽室淳爾特任教授にもご出席いただき、ご自身のアカデミアと企業の両方で研究に従事されたご経験に基づいて包括的なお立場からのコメントやご助言をいただいた。また特別講演として厚生労働省研究開発課再生医療推進室の今井浩二郎専門官をお招きし、「再生医療の安全性確保と推進について」との内容で、行政サイドから見た我が国の医学研究の現状と方向性についてご講演いただいた。また羽室淳爾特任教授には「ハイウェイプロジェクト角膜内皮研究、心の隙間」と題した講演をいただいた。平成 23 年 11 月に開始された国家基幹研究開発推進事業「再生医療の実現化プロジェクト」で行っている「培養ヒト角膜内皮細胞移植による角膜内皮再生医療の実現化」の内容について、ご自身の研究背景を交えてご講演いただいた。今後の当教室の研究の発展につながる有意義な会議であった。



## 7. その他

- ・会員が定期講演会を閲覧できるオンラインサービス「iseminar」をスタートさせた
- ・ホームページを用いて本研究会の活動内容や活動成果を公表した